

学力向上アクションプランチェックシート〔改訂版〕

( 実態把握<5月末> ・ **中間チェック<9月末>** ・ 最終チェック<2月末> )

(大志小)学校

項目		チェック内容	A	B	C	D	現状と課題	今後の取組み	
①	教育課程	<b>カリキュラム・マネジメント</b> ※教科等横断的な視点で教育内容を組織し、PDCAサイクルを確立しているか。			○		・教科によって偏りはあるが、学んだことを教科間で生かすことができるように、単元を仕組んでいる。 ・小中連携による学力向上推進地域指定事業を受け、教科間や学年間、学校間をつなげながら学習を仕組んでいる。	・進んで取り組むことはできているが、十分にカリキュラムを検討する時間の確保ができなかったため、今後、設定していきたい。	
②	単元	<b>単元の学習過程</b> ※単元等のまとまりで問題解決的な学習過程を仕組んでいるか。			○		・知識や技能を身につけるための訓練をする時間もあるが、問題を解決するために、対話をしながら取り組むような時間とっている。しかし、学びの習熟が十分ではなく、次に進むこともある。	・児童を中心とした主体的で対話のある学びに取り組んでいくとともに、知識や技能を身につけるための訓練をする学びにも十分な時間を仕組んでいく。技能教科においても問題解決型学習を取り入れていきたい。	
③	1 単 位 時 間  ( 課 題 解 決 )  評 価	<b>単元全体の見通しと現在地の把握</b> ※児童生徒に学習の道筋を理解させているか、前時の復習をさせているか。			○		・毎時のワークシートに既習事項を書き、前時の復習をすることができている。 ・国語や算数を中心に学習計画表を作成している。他の学習でも、単元のゴールを明確にした学習を心がけている。	・学習課題を設定するところから児童が主体的に取り組み、単元全体の見通しを持たせる。また、国語、算数以外の教科においても単元計画を教室に掲示したり、学習の流れ、既習内容をワークシートに載せたりしていく等の工夫をする。	
④		<b>本時の学習課題の把握</b> ※児童生徒に解決すべき本時の課題を明確に把握させているか。			○		・一単位時間の学習の流れやめあてを授業始めに司会団や教師が示すことで、学習の流れに見通しを持って取り組むことができている。	・学習課題や学習の流れ、内容等をワークシートなどに載せるだけでなく、教師の話の中で既習事項や課題を明確に示し、見通しを持ち、主体的に取り組めるようにしていく。	
⑤		<b>個別の課題解決学習(PersonalWork) *</b> ※課題解決の時間や場を確保しているか。			○		・学習の中で必ず確保できている。しかし、書くことができる児童とそうでない児童の差が見られ、時間を要することがあった。そのため、その後の活動の時間が削られることもあった。	・ワークシートやノートの工夫をすることで、時間内に書ける児童が増えてきたが、書けない児童もいるため、今後も手立てを継続していく。時間内に書く訓練を引き続き行っていきたい。	
⑥		<b>グループによる課題解決学習(GroupWork) *</b> ※課題解決に向け、複数意見からひとつの意見にまとめるような話し合いの場を仕組んでいるか。			○		話し合いの仕方を確認するような教師の声かけを行うことにより、児童の話し合いがスムーズに進むようになってきた。話し合いの進め方カードを作成したことで、話し合いの視点が明確になった。	・発達段階に合わせたグループワークの司会マニュアルを作成する。 ・教師の中やワークシートに、話し合いの視点を明確に示すことで、児童の話し合いがスムーズに進むようにしていく。	
⑦		<b>クラスによる課題解決学習(ClassWork) *</b> ※各グループの意見を生かした話し合いを仕組んでいるか。				○	・報告者になった児童による説明力に差がみられる。また、単に意見の出し合いで終わることもあった。学びの深まりに課題がある。 ・クラスワークの時間が十分に確保できないことがある。	・児童が考えることができるところは視点を明確にし、話し合いをさせ、難しいところは教師が効果的な発問をしながら進めるといったスタンスを進めていく。そのためにも、教師が入るところとそうでないところをしっかりと見極めている。	
⑧		<b>教師による解説、解決、解答</b> ※児童生徒の学びを深め、理解不足を補う説明を行っているか。			○		・児童自身でまとめることができないときは、教師が補足・説明をするようにしている。 ・児童の主体性を損なうことがないように、児童の意見を拾いながら解説を行った。	・一方的な教師の説明にならないように、児童の意見や考えを大切に受け入れながら、補足説明ができるように心がけている。 ・理解が不十分な児童については、個別に補充を行う。	
⑨		<b>子どもの最終的な記述(表現)</b> ※本時の学習課題と対応した記述(表現)をさせているか。			○		・学習のまとめを必ず書くようにしているが、児童自身でまとめることができなかつたり、めあてとまとめがつながっていないなかつたりしていることがあった。まとめる際に児童へキーワードを聞いて、つなげながらまとめるような手立てを取っている。	・単元の中の本時であるという位置づけであることから児童自身が把握するために、単元計画や本時のめあてを確認しながら、まとめを記述させるようにしていく。場合によっては、全体で発表し合う場面も設定する。	
⑩		<b>学習の振り返り</b> ※学んだことの整理や自己評価の場を設定しているか。			○		・振り返りは、毎時間必ず行うことができた。ただ、時折、時間が足りず、まとめが雑になったり、全体で共有することができないこともあった。	・本時のめあてを意識させ、「この時間で身につけた力」など、振り返りにも視点を与えて、書かせるようにしていく。 ・時間を確保するために一単位時間の学習内容の精選をしていく。	
⑪		<b>条件に応じた記述(書く力)</b> ※条件付きの書く活動を授業の中に仕組んでいるか。			○		・ワークシートやノートに書く活動を必ず設けている。できるだけ字数制限をしたり、書き方を指定したりと条件を与えている。ずいぶん書く力がついてきたように感じるが、個人差が大きい。	・授業やすくすくタイムでの取り組み、日記での取り組みの中でよりよい書く活動の設定(条件の与え方)を工夫していく。 ・モデルの提示。観点や条件を付け、記述力を高める取り組みを行う。	
⑫		そ の 他	<b>言語活動を活発にする教育環境</b> ※学習活動を活発にするために掲示物等の教室内外の環境を工夫しているか。			○		・UDの観点に集まり取り、学習に必要な掲示をしており、学習のつながりが見える掲示を心がけている。 ・情報過多にならないように、学習活動を活発にするための掲示を工夫した。	・児童の学びを深めるような効果的な掲示を心がける。また、掲示物にも教師のコメントや資料の見方などを加え、掲示しよきよき気づかせていく。
⑬			<b>ノート指導</b> ※学校や教師の指導の意図を反映させたノート指導を行っているか。			○		主にワークシートを工夫し、学習を進めている。めあてやまとめ、振り返りを書く枠や学習の流れなど、学校で統一して作成している。内容や領域、学年によっては、ノートの書き方についても指導を行った。	・教科や単元に応じて、ワークシートとノートを使い分け、効果的な指導が必要である。ワークシートを使用する頻度が高いので、ノート指導も適宜行っていく。
⑭	<b>学習規律</b> ※児童生徒に学習規律を理解させ、主体的に守らせようとしているか。				○		・小中連携として取り組んでいる「立憲教育」を継続することで、静かに授業を始めることができている。話の聞き方、話し方など学習を支える基本的なところはしっかりと指導している。	・校内研の1つの柱でもある「話の聞き方」「返事」「反応」を引き続き徹底していく。 ・集会等も含め、児童の自主的な行動になるように支援していく。2分前行動の徹底をする。	
⑮	<b>家庭学習</b> ※単元の指導内容や方法と結びついた課題を出しているか。				○		・家庭学習の手引を参考に、大志小独自の手引を作成している。家庭にもそれを配布しており、共通理解を図っている。復習内容にとどまっているところがあるが、自主学習を通して学習的な学習ができるようになってきた。	・学習の内容や学年総復習内容を計画的に取り入れるようする。 ・中学校区で家庭学習について話し合いを持ち、共通理解できるところを設定する。	
⑯	<b>学習内容の定着</b> ※学年間・小中間における教科の系統性を見直し、復習の時間を計画的に仕組んでいるか。				○		・小学校全体の系統性を考え、授業するようにしているが、定期的な復習の時間の確保まではできていない。昼休みや放課後に個別指導の時間を設定することもあるが、時間が十分ではない。	・すくすくタイムの時間において、月に1回はテストの時間を設定する。再テストや個別指導を複数の教員で行い、定着を図る。 ・12月調査に向けて、基礎的・基本的内容が定着しているか確認、復習を行う。	
その他の取組み		*学習内容の補習の時間の確保・・・昼休みや放課後を使い、基本的な内容の定着を図る。 *「大志っ子ノート」・・・年度初めに各学年で改善を行い、生活のふり振り返りノートを全校的に内容面で統一性を図りながら行うようにした。家庭と子どもと教師のやりとりの中で、子ども達の学習や学校生活について、家庭に関心を持ってもらうこと、家庭学習を定着させることをねらいとしている。 *「すくすくタイム」・・・基礎・基本の力の定着・書く力をつけることめざし、毎週火曜日と木曜日の朝の時間に10分程度、その日の復習や既習内容の基本問題などに組み込まれる時間を設けている。 *「全校すくすくテスト」・・・月末の火曜日か木曜日、全校一斉にテストをする。各クラスの平均点をだし、玄関に掲示をしている。基礎的な問題が中心である。							

\* PW・GW・CWについて順序性はない。授業のねらいと児童生徒の実態に応じて組み合わせる。